

NPOアスター

清水昂太

法人理事



03-6276-8412

regene.themedia.jp

東京都渋谷区代々木2-36-10
アドウェル代々木206

ビジョン

当社の「アスター」という名前には「多様性」という花言葉を持つ植物の名前を用いております。多様化する訪問介護の在り方に柔軟に寄り添っていきけるよう、様々なアプローチを日々考えております。

父の介護をきっかけに、介護・福祉の世界へと足を踏み入れた 清水昂太。現在はNPOアスターの法人理事として、訪問介護と生活支援を軸に、地域に根ざした福祉の実践に取り組んでいます。清水が大切にしているのは、「介護を特別なものにしすぎない」こと。主婦の家事経験や中途採用者の人生経験が、そのまま支援の力になる——そんな柔軟な介護現場を目指し、制度や肩書きにとられない支援のかたちを模索してきました。NPOアスター設立の背景や訪問介護にかける想い、生活支援を通じて実現したい地域福祉の未来像について、清水昂太の歩みとともに紐解いていきます(2026年1月取材)。

訪問介護との出会い：父の介護で気付いた生活支援の価値

清水さんが介護・福祉の道を歩むことになったきっかけを教えてください。

福祉系の大学で心理学を専攻していましたが、「心理学で学ぶ内容はどんな仕事にも応用できそうだ」という理由で選んだ学問であり、介護や福祉の仕事に強い使命感を持っていたわけではありませんでした。

周囲から見れば、遊びも楽しみながら学生生活を送っている、ごく普通の男子大学生だったと思います。

一方で、私の家庭では、高校生の頃から父がALS（筋萎縮性側索硬化症）という進行性の難病を患っており、時間の経過とともに少しずつ身体を失っていく父の姿を、家族として間近で見続けてきました。

大学進学後も実家から通いながら、学業と並行して家族の一員として介護に関わる日々が続いていました。

その生活の中で、訪問介護や福祉用具レンタルといった在宅サービスを利用するようになり、日常生活を支える「生活支援」が、本人だけでなく家族にとってもどれほど大きな助けになるのかを、実体験として強く感じるようになりました。

教科書の知識ではなく、現実の生活の中で支援の価値を実感したことが、私の中で福祉を「仕事として向き合う対象」へと変えていったのだと思います。

大学卒業後は、これまでに学んできた知識と、家族介護を通じて得た経験の両方を活かせる仕事に就きたいと考え、業界でも大手とされる福祉用具レンタル会社へ就職しました。



佐藤弘樹代表（右）とともに

実際に働いてみていかがでしたか？

入社後は、朝7時から終電近くまで働く日が続くほど非常に忙しい毎日でしたが、その分、営業活動だけでなく、福祉用具の設置、手すりの取り付けといった住宅改修、さらには展示会の運営まで幅広い業務に携わることができ、福祉サービスの全体像を実践的に学ぶことができました。

ただ、その一方で理不尽さを感じる場面も多く、同期は入社から3か月ほどで営業用の社用車を使わせてもらっていたにも関わらず、私だけが1年間使わせてもらえませんでした。

努力や成果とは別のところで評価されているのではないかと感じることもある中、入社当初は15人ほどいた同期も、1年が経つ頃には半数近くが退職しており、職場環境の厳しさを物語っていたように思います。

私自身も3年ほど勤める中で心身ともに限界を感じるようになり、知人の誘いでアミューズメント業界へ転職し、ダーツマシンやスロットマシンのリース・調整といった業務に2年ほど携わりました。

しかし、勤務していた会社が海外資本に買収され、組織体制や価値観が大きく変わってしまい、「この先、自分はどんな仕事を通じて社会と関わっていききたいのか」と改めて考えるようになりました。

その問いに向き合った結果、やはり自分の原点には、父の介護を通じて実感した生活に寄り添う支援があると気づき、もう一度介護・福祉の世界に戻る決意を固めました。

その後はどのような職場で働いたのでしょうか？

その後は、比較的規模の大きな訪問介護事業所へ転職し、一人で日常生活を送ることが難しい、いわゆる寝たきりの方を中心に、生活全般を支える支援に携わっていました。

身体介護だけでなく、日々の暮らしを整える生活支援にも深く関わる中で、在宅でその人らしい生活を続けるためには、訪問介護の果たす役割が非常に大きいことを、改めて実感するようになりました。

そうした現場で3年ほど経験を積んだ頃、現在NPOアスターの代表を務めている佐藤から、「一緒に新しい事業を始めてみないか」と声をかけてもらいました。

私自身、これまでの経験を次の形につなげたいと考えていた時期でもあったため、その誘いを前向きに受け止め、挑戦してみることを決めました。

当初は、「福祉に関わることなら何でもやってみたい」という思いから、SNSを活用した情報発信や講演会の開催、さらにはキャラクターグッズの制作など、今振り返ると少し夢見がちな構想まで語り合っていました。

しかし、話し合いを重ねる中で、まずはしっかりとした土台を築くことが何よりも大切だという結論に至り、自分たちがこれまで現場で培ってきた強みである訪問介護から始めようと決め、佐藤、私、そして上田、経理を担当する落合の4名で、2020年に訪問介護事業所としてNPOアスターを設立しました。



訪問介護事業所 NPOアスター設立の背景と理念

「アスター」に込めた想いを教えてください。

「アスター」という花には、「多様性」という花言葉があり、働くスタッフも、サービスを利用する利用者さまも、それぞれが異なる背景や価値観を持ちながら、いろいろな形で福祉に関わる場所であってほしいという願いを込めて、この名前を選びました...

続きはQRコードからアクセスしてください → → →

